

川越市外国にルーツを持つ児童・生徒 保護者の意識調査 (概要版)

市立の小・中学校に通う児童・生徒の保護者に対し、子どもの日本語や授業の理解度、要望等を調査し、今後の学習支援を行うとともに、次期川越市国際化基本計画策定のための基礎資料とするため、本調査を実施しました。

令和7（2025）年1月

川越市 国際文化交流課

【調査のあらまし】

- ・ 調査期間 令和6年9月9日（月）
～10月7日（月）
- ・ 調査対象 市立の小・中学校に通う
外国籍児童・生徒の全保護
者
- ・ 調査方法 郵送による配布、回収
※調査票は、日本語版調査票（ルビ付・やさし
い日本語）と外国語版調査票（言語別）を作
成し、調査対象者別に以下のとおり配布した。

国籍・出身地	調査票種別
中国	日本語版・中国語版
ベトナム	日本語版・ベトナム語版
ネパール	日本語版・ネパール語版
その他	日本語版・英語版

- ・ 回収結果 93件（30.3％）

【調査項目】

- (1) 居住地区
- (2) 国籍・地域
- (3) 日本語能力
- (4) 子どもの教育について困っている
ことや心配していること
- (5) 子どもの教育のことで困ったときの
相談先
- (6) 中学校卒業後の進路についての考え
- (7) 市の情報の入手手段
- (8) 行政サービスの認知度
- (9) 地域に必要な場所
- (10) 子どもの日本在住歴
- (11) 子どもの日本語能力
- (12) 子どもの日本語勉強方法
- (13) 子どもが学校以外の日本語教室に
行ける曜日・時間
- (14) 子どもが困っていること
- (15) 子どもにとって必要な場所

この調査は、一般財団法人自治体国際化協会から助成を受けて実施しました。

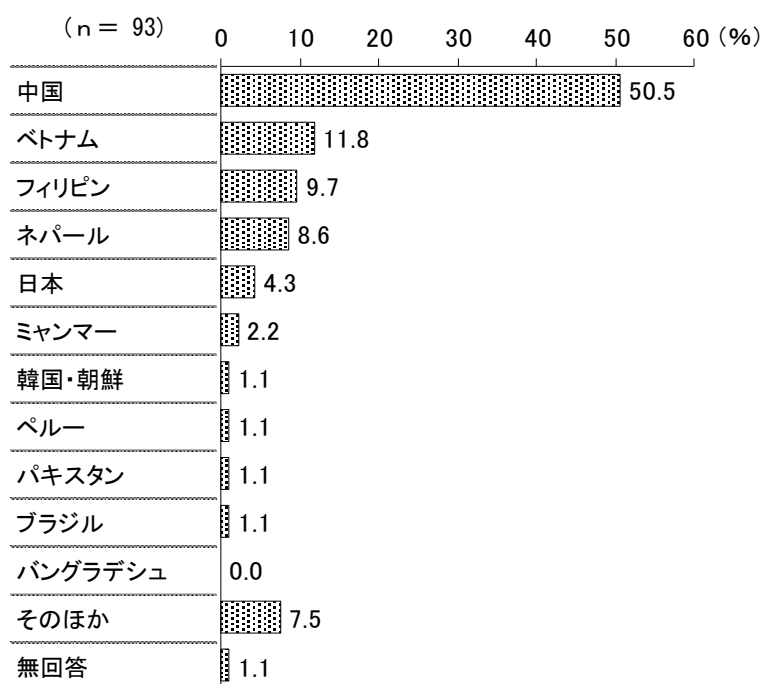


一般財団法人

自治体国際化協会

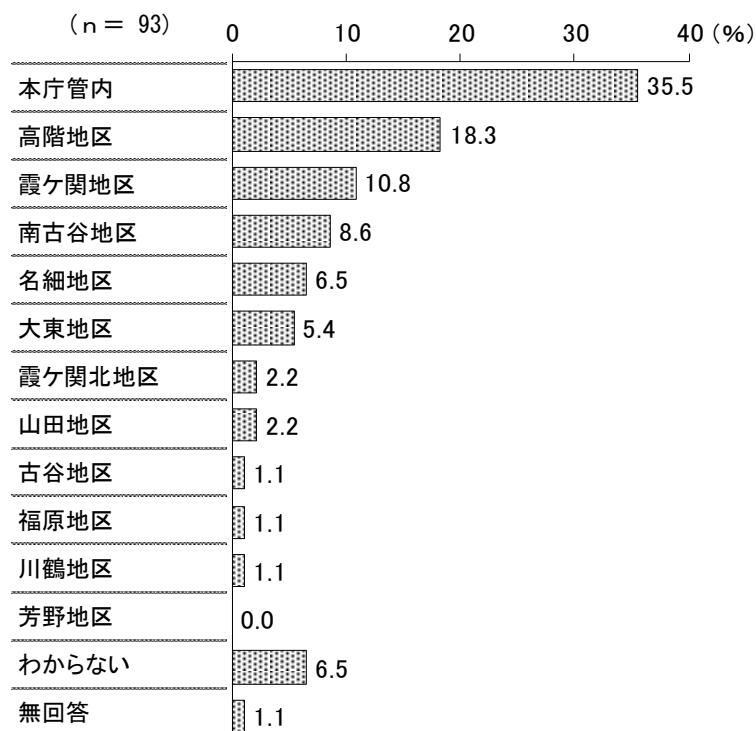
回答者の国籍・地域

国籍・地域について聞いたところ、「中国」が約5割で最も高く、次いで「ベトナム」、「フィリピン」、「ネパール」、「日本」などの順になっている。



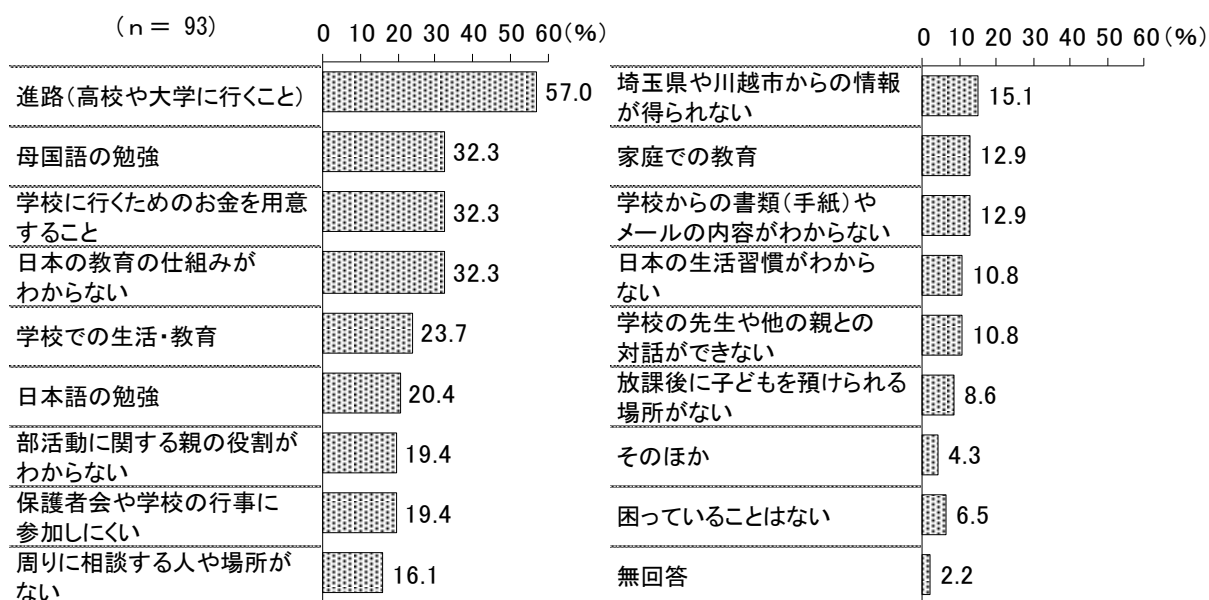
回答者の居住地区

居住地区について聞いたところ、「本庁管内」が3割半ばで最も高く、次いで「高階地区」、「霞ヶ関地区」、「南古谷地区」、「名細地区」などの順になっている。



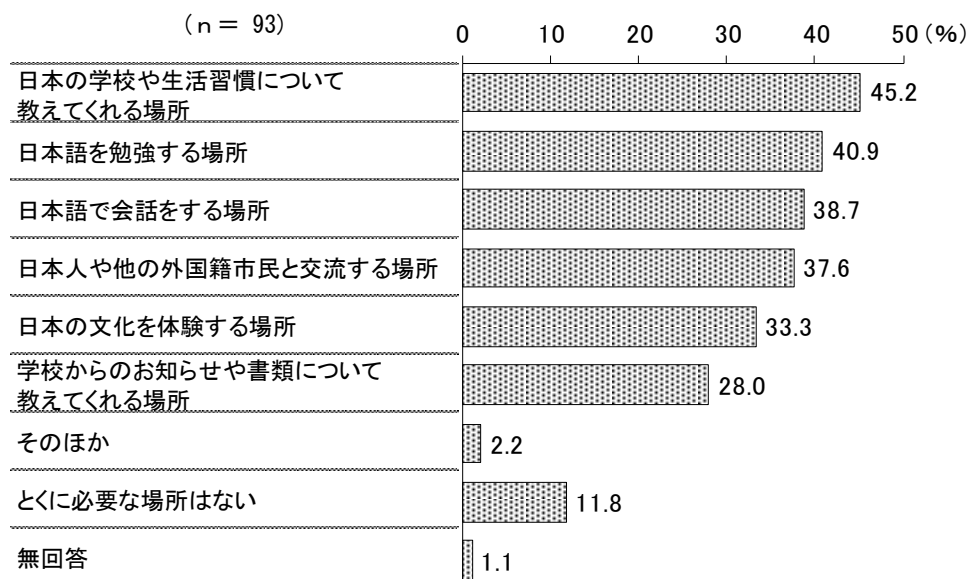
子どもの教育について困っていることや心配していること

子どもの教育について困っていることや心配していることを聞いたところ、「進路（高校や大学に行くこと）」が6割近くで最も高く、次いで「母国語の勉強」、「学校に行くためのお金を用意すること」、「日本の教育の仕組みがわからない」、「学校での生活・教育」などの順になっている。一方、「困っていることはない」は1割未満にとどまっている。



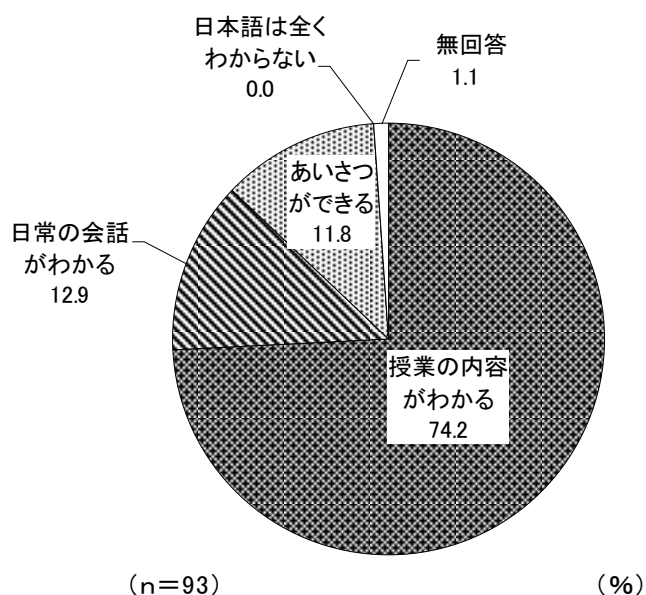
地域に必要な場所

地域に必要な場所について聞いたところ、「日本の学校や生活習慣について教えてくれる場所」が4割半ばで最も高く、次いで「日本語を勉強する場所」、「日本語で会話をする場所」、「日本人や他の外国籍市民と交流する場所」、「日本の文化を体験する場所」などの順になっている。一方、「とくに必要な場所はない」は1割程度にとどまっている。



子どもの日本語能力

子どもの日本語能力について聞いたところ、「授業の内容がわかる」が7割半ば、「日常の会話がわかる」、「あいさつができる」はともに1割を超えている。一方、子どもは「日本語は全くわからない」と回答した保護者はいなかった。



子どもが困っていること

子どもが困っていることについて聞いたところ、「母国語がわからない」が約2割で高く、次いで「学校の勉強がわからない」、「日本語がわからない」、「友達がいない」、「友達との関係がわるい」などの順になっている。一方、「困っていない」は4割半ばを占めている。

